浄土真宗本願寺派更生保護事業協会会長賞

頼ることの大切さ

京都市立桂坂小学校　六年　水口　侑大

　ぼくの最近あった出来事をお話しします。ある水曜日、五時間で学校が終わり、家が近い友達と帰ってきた時のことです。その友達にトラブルが起きました。家のかぎを家の中に忘れてきたのです。ぼくは、

「うちにおいでよ。」

と、言いましたが、友達は

「お父さんが帰ってくるかも……家の前で待っとく。」

と、言いました。それで、気になりながら、ぼくは家に帰りました。宿題を始めようとした時、ピンポーンとチャイムの音。ドアを開けると、友達が立っていました。友達は、

「うちのお父さんに連絡してくれない？」

と、言いました。ぼくのお父さんが、

「家に入って。」

と、言いました。そして、友達は家に入り、ぼくたち二人が塾に行く数分前に友達のお父さんがむかえにきました。いつもなら友達は「家の前で待つので大丈夫です。」と言っていたと思います。その時にぼくは思いました。「相手を頼ることが大事。」だと。友達はいつも、いろいろなことを自分でやる人だけど、自分の力ではどうすることもできない時は、相手を頼ることができる人でした。そんな友達は格好良かったと思います。

　そんなことを思いながら自分をふりかえると、よくないことが多く思い出されます。ぼくは、算数には自信がありました。自信があるということは、悪いことではなく、アスリートにとってはとても重要な言葉です。しかし、ぼくは自信があるがゆえに「分からない」ということを友達に言うことができず、困った顔をしていながら、クラスの友達が教えに来てくれると「分かる」とうそをついたことがあります。分からないことがはずかしくてしてしまった行動だったと思います。だからあの友達のように相手を頼ることができるのは、すごいことだと思います。六年生になった今でも、信頼できる母と父や塾の先生だけにしか聞いたり頼ったりすることができません。ですが、限られた人だけを頼るのは、人生損だと今では思っています。

　ぼくはこの経験から犯罪や非行がなぜ起こるのか考えました。犯罪や非行は決して許されることではありません。ではなぜ起こるのでしょうか。それは周りの人を信頼せず、「どうせ、誰も助けてくれない。」という思いこみだと思います。そういう感情をもっている人を助けるためには、どうしたらよいのでしょう。ぼくの考えでは、その思いこみをなくすために、一度、他の人を頼ってみてはどうでしょうか。頼ることの大切さを知っておけば、思いこみもなくなると思います。では、もうすでに犯罪を犯したり、非行に走ってしまった人達は、どうしたら二回目をしなくなるのでしょうか。その人が立ち直るには、何が必要で、どんなことをすることが大事なのでしょうか。ぼくは、たぶん、人を信じられないから頼ることができず、やってしまったと思います。だから、人を頼ることの大切さを教えることが大切だと思います。ですが、世の中には「自分だけを信じ、自分を頼っている」という人もいるでしょう。またぼくのように限られた人しか頼れないという人もいるでしょう。そんな人達は、少しずつ少しずつ、話したり頼ったりすることが大事です。たとえ一人でも二人でもいいから、少しずつ頼れる人を増やすことが大事です。そうすれば、次第に話したり頼ったりすることができる人が増えていくでしょう。その人達にきびしいことを言われても、相談することができます。そうすれば、自分でストレスや不満を抱え込まず、犯罪や非行に関わらずにすむでしょう。自分だけではな

く、別の誰かの世界観を知り、共有することができれば、社会は明るくなっていくとぼくは考えました。誰かを頼ることで、周りに迷惑をかけない方法で解決できると思います。

社会を明るくするために、ぼく達ができることは非行防止や犯罪防止のためにあいさつをすることなどいろいろあると思うけれど、一番大事なのは、周りの人を頼り自分ひとりで抱え込まないことだと思います。周りの人を頼ることで非行や犯罪を未然に防ぎ、社会が明るく楽しく生き生きとなることが何よりも大事だと思います。

審査員からのメッセージ

人に迷惑をかけないことや自己責任を問われる現代において、友人とのかかわりの中で「頼ること・頼られること」の尊さに気付いた小学生の視点に感銘を受けました。

浄土真宗本願寺派更生保護事業協会会長賞

「私たちの笑顔でつなぐ未来」

大谷中学校　二年　大嶋　良惟

私が住む町には、いつも誰かの「ありがとう」があふれています。朝、登校する道で近所の人に「おはようございます」と声をかけると、にっこり笑って「おはよう」と返してくれます。どんな時でもその一言に元気をもらうことができます。こうした小さなやりとりが積み重なることで、町全体が明るくなるのだと思います。

中学二年生になって、私は友達との関係に少しずつ変化を感じるようになりました。以前はただ楽しく話していた幼馴染が、いつの間にか悩みや気持ちを伝え合う仲となっていました。ある日、久しぶりに友達のAさんと会った時、彼はどことなく元気が無いように思いました。そのことを尋ねると、Aさんはしばらくしてから語り始めました。彼は、友達との距離を感じることが多くなり、悩んでいたそうです。私はただうなずきながら話を聞き、最初に「話してくれてありがとう」と伝えました。Aさんが笑ってくれたとき、心が温かくなったのを覚えています。

逆に、私が成績のことで悩んでいたとき、友達が気づいて声をかけてくれたこともありました。「勉強無理してない?」と優しく言ってくれたその言葉は、今でも心に響いています。この時初めて、自分の気持ちに正直になることの大切さを理解した気がしました。

去年の秋、地域のボランティアに参加しました。公園や通学路に落ちている空き缶やビニール袋をトングとごみ袋を使って拾っていく活動です。最初は正直面倒くさいなと思っていたのですが、同じ班で活動していた小学生の子が「お兄ちゃん、ありがとう」と声をかけてくれたとき、何故か胸がじんと熱くなりました。小さな行動だとしても、誰かのためになるのだと実感できました。

この経験をきっかけに、私は毎日学校で掃除を手伝うようになりました。教室の周りを掃き、黒板を拭くと、学校が少しずつ綺麗になっていくのが分かります。誰かのために時間を使うとは、自分の心を磨くことでもあると実感しました。最近では、「気持ちよく学校生活を送ってもらいたい」という思いが自分の中で育つのが分かるようになりました。

さらに、私は家でも掃除をするようになりました。帰宅後、玄関のたたきや台所の周りを拭いたり、ダイニングルームを整えたりすることを習慣にしています。最初は母も驚いていましたが、最近は「助かるよ」と自然に受け入れてくれるようになりました。また、妹が学校から帰って来たときに、さっと机の上を片付けると、勉強に集中できると言ってくれました。このたった数分の行動が、空気を和ませてくれることを知り、誇らしい気持ちが芽生えました。こうした日々の積み重ねが、私にとっては大切な習慣のように思えます。

また、再びボランティアに参加したときに出会った保護者の方や地域の人たちと言葉を交わすことで、自分の視野が広がった気がします。色々な人と話すことで、面白い話をたくさん聞くことができました。自分がこの活動に参加することで、新たに何かを見つけることができるのは嬉しいことでした。

今できるのが小さな活動でも、続けることで周りの人に良い影響を与えられると思います。学校や地域は、一人一人の行動で変わるものです。たとえ小さな力でも、誰かを笑顔にできる。それが私の原動力となっています。

私は、私たちが行っている小さな取り組みが、周りにも伝わっていくことを願っています。言葉で強制するのではなく、日々の行いで誰かの心を動かしたいのです。朝の挨拶から、夕方にする掃除まで、私たちの努力が町全体を明るくできると信じています。

そして、いつか私たちの町が、誰にとっても安心できる温かな場

所になることを願っています。未来を明るくするのは特別な人ではなく、一人一人の優しさと行動です。その一歩を、今日から、踏み出していきましょう。

審査員からのメッセージ

笑顔が笑顔を生む地域での体験を通して、「未来を明るくするのは特別な人ではなく、一人ひとりの優しさと行動だ」と、私に呼びかけてくれました。